

ニホンザルの現状（被害防除、捕獲状況、生息状況、被害状況）

1. 被害防除実施状況

- ・ニホンザルだけの防除実績の推移を示す定量的なデータは少ないが、被害防除は、各地で進められている。
- ・各府県の特定計画から読み取れる、ニホンザルの被害防除実施状況について量的な評価がある事例は、表 1-1 に示したとおりである。

表 1-1 特定計画に記載されているニホンザルの被害防除実績

都府県名	11 次特定計画中に量的な記載がある事項
青森	<ul style="list-style-type: none"> ・電気柵設置距離（カモシカ等の鳥獣対策事業を含む） ・接近警戒システム設置数 ・モンキードッグによる追い上げ（各地区町村 1 頭程度）の市町村毎の推移 ・市町村毎の対策実施状況の推移
千葉	電気柵等の防護柵設置距離の推移（2010 年までに 9 市町村の合計延長 333 km）
神奈川	<ul style="list-style-type: none"> ・電気柵設置距離の推移（2007～2010 年の期間に計 19.8 km） ・追い払い回数の推移
山梨	<ul style="list-style-type: none"> ・電気柵設置距離（2007～2010 年の期間に計 86 km） ・モンキードッグによる追い払い（2010 年末までに計 26 頭配置） ・ホームページによるサルの位置情報の提供・接近警報システム
京都	・防護柵設置距離（シカ、イノシシ等の鳥獣対策事業を含む）
兵庫	<ul style="list-style-type: none"> ・防護柵設置箇所（2007 年以降計 12 箇所） ・サル追い犬の育成数（2007 年以降計 25 頭） ・サル監視員設置数（2011 年計 8 名）
和歌山	・防護柵設置距離（2011 年までに計 98 km）

2. 捕獲状況

- ・最近のニホンザルの捕獲状況は、図 2-1 に示したとおりである。
- ・ニホンザルの捕獲は、許可捕獲のみ。従来の有害鳥獣捕獲に加え、2002 年度からは、特定計画に基づく数の調整による捕獲（個体数調整）が開始されている。
- ・捕獲数は、有害鳥獣捕獲、個体数調整ともに概ね増加傾向にあり、2010 年度には双方を合わせて捕獲数は 20,000 頭を超えた。
- ・個体数調整による捕獲数は、2002 年度の制度開始以降、徐々に増えているが、捕獲数全体の 3 割程度で、依然として有害鳥獣捕獲による捕獲数の方が多かった。

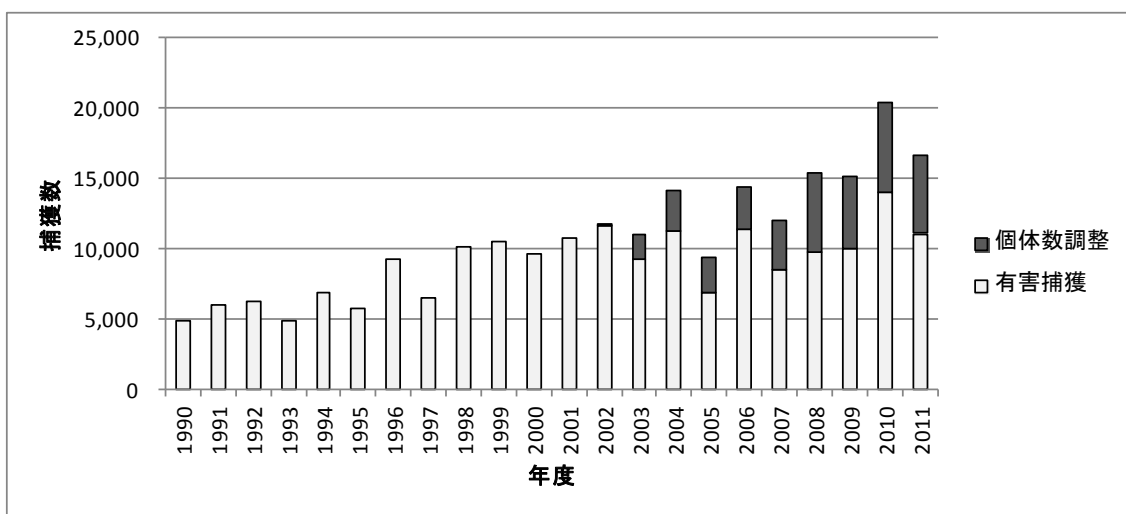


図 2-1 ニホンザルの捕獲数の推移
鳥獣関係統計（環境省 HP）より作成

3. 生息状況

(1) 日本全国でのニホンザルの分布状況

- ・ニホンザルの全国的な分布調査は 1978（昭和 53）年、2003（平成 15）年に実施されており（環境庁，1979、環境省生物多様性センター，2004）、図 3-1 は、2 回の調査での分布を比較したものである。
- ・ニホンザルの群れが分布しているのは、北海道、茨城県、長崎県、沖縄県を除く 43 都府県である。
- ・ニホンザルの分布域は、この四半世紀の間に 5 km メッシュ数で 2,288 から 3,493 に、おおよそ 1.5 倍に増えている。特に東北地方や関東地方で分布拡大が顕著で、それぞれこの間に 2.3 倍から 1.9 倍になった。拡大が少ないのは中国地方で 1.02 倍、他は中部地方が 1.5 倍、近畿地方と四国地方が 1.4 倍、九州地方が 1.6 倍と、分布拡大は全国的な傾向である（環境省，2010）。

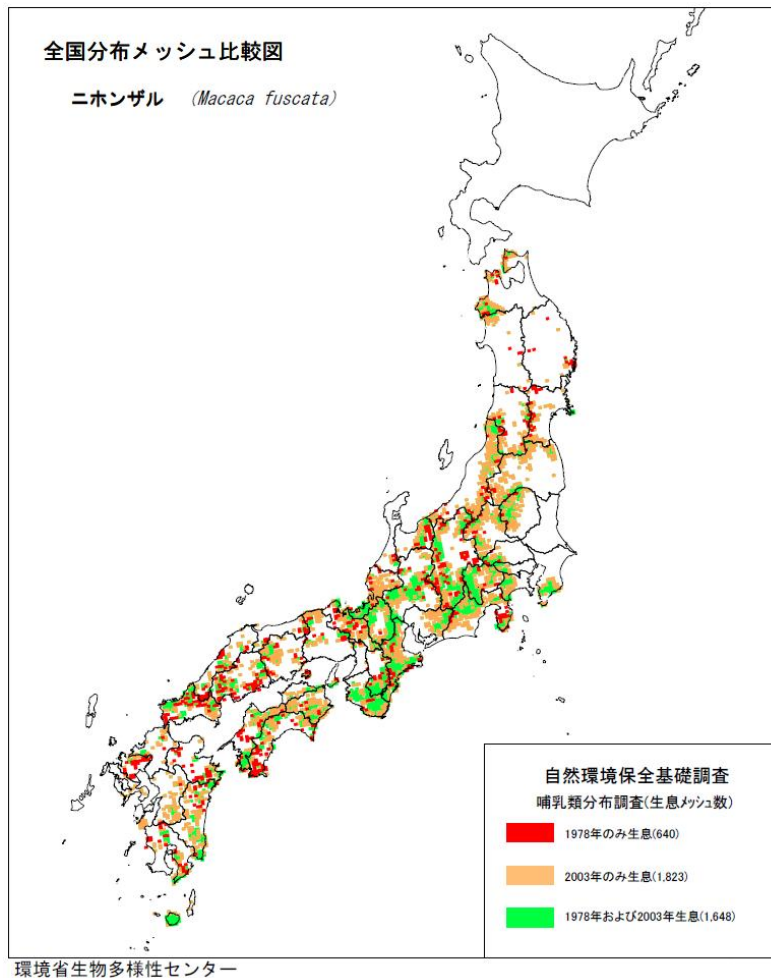


図 3-1 ニホンザルの群れの分布状況

(1978 年調査：環境庁，1979、2003 年調査：環境省生物多様性センター，2004)

(2) 特定計画から読み取れるニホンザルの生息状況

- 全国的な分布調査は、2003 年以降実施されていないが、特定計画に記載されている主に 2003 年以降に実施された調査結果を整理したものが表 3-1 である。
- 各地のニホンザルの生息数、群れ数は増加傾向にあり、分布域も拡大傾向にあるところが多い。

表 3-1 特定計画によるニホンザルの生息状況

都府県	生息数		群れ数		拡縮	分布域 分布の変化	備考
	増減	推移	増減	推移			
青森	増	1,382+α(2005) ↓ 1,923+α(2010)	増	29(2005) ↓ 56(2010)	拡大	2006～2010 むつ市脇野沢地区 一部等	
宮城	増	1,703(2003) ↓ 2,557(2011)	増	30(2006) ↓ 41(2012)	拡大	2006～2012 県南丸森西部・東 部等にも分布	
秋田	不明		不明		不明		2003年以降県全体のデー タ無し
山形	市町村毎 に異なる	820[2市町村](2007) ↓ 4,326[11市町村](2011)	市町村毎 に異なる	16[2市町村](2007) ↓ 98[11市町村](2011)	不明	2003年以降のデー タ無し	
福島	増	6,515(2007) ↓ 7,673(2012)	増	96(2007) ↓ 130(2012)	やや拡大	2002～2005 只見町等	
栃木	増	3,300±670(2006) ↓ 3,700±750(2009)	増	61(2006) ↓ 68(2009)	拡大	生息が確認された5 kmメッシュ数(ハナ レザルを除く) 84(2006) ↓ 97(2009)	・生息数は推定
群馬	増	2,153(2005) ↓ 2,525(2009)	不明	40以上(2009)	拡大	生息が確認された 地区数 53(2005) ↓ 64(2009)	アンケート調査によると生息 数、分布域は増加、拡大
千葉	不明	4,100(2005) 以降データ無し	不明	87(2000) 以降データ無し	拡大	分布面積(km) 724(2009) ↓ 733(2010)	君津市・富津市で北西部へ 拡大等
神奈川	地域個体 群毎に異 なるが、ほ ぼ横ばい	968(2004) ↓ 959(2010)	やや増	18(2004) ↓ 19(2010)	拡大	各群れの行動域拡 大 2005～2010年 (面積は不明)	行動域を地図上に表示
新潟	不明	2,500～3,200(2001～ 2006) 以降データ無し	不明	50～64(2001～2006) 以降データ無し	不明		・2005～2007年の出沒地域 および目撃地点をまとめて 地図上に表示 ・生息数、群れ数は山岳地 を除く
富山	増	加害群:1000(2006) 非加害群:1400(1988～ 1990) ↓ 加害群:1700(2010) 非加害群:1400(1988～ 1990)	減	加害群:32+α(2006) 非加害群:55(1988～ 1990) ↓ 加害群:29(2010) 非加害群:55(1988～ 1990)	拡大	加害群の行動域が 拡大 2006～2010年	・非加害群については一部 を除き調査されていないた め、群れが識別されず不明 な点が多い
石川	増	1,041(2004) ↓ 1,246(2011)	横ばい	30(2004) ↓ 30(2011)	拡大	群れの分布(メッ シュ数)が拡大 14(2006) ↓ 22(2011)	生息数はハナレザルを含む
山梨	不明	3,500～4,000(2005～ 2006) 以降データ無し	不明	70(2005～2006) 以降データ無し	不明	2006年以降デー タ無し	1923～2005年の分布状況 は拡大(地図上に表示)
長野	増	6,500～10,000(2002) ↓ 7,000～10,300(2008)	増	120～180(2002) ↓ 130～190(2008)	拡大	目撃されたポイント 数 1705(2002) ↓ 1924(2008)	目撃ポイントは、群れ・小集 団・単独・不明に分類
愛知	増	790～1,733(2005) ↓ 最大3,400(2010)	不明	43(2005) 以降一部テレメトリ 調査のみ	拡大した 地域が多い	2005～2010年のア ンケート及び聞き取 り調査 増加:10市町村 横ばい:5市町村 減少:8市町村	
滋賀	不明	約8,000(2008～2011)	増	109(1999～2001) ↓ 125(2008～2011)	増	一部群れの行動域 拡大 1999～2001年→ 2008～2011年	・第10次計画中の群れ数 133群には一時的に分派し ていた群れを別群としてカ ウントしていたため109群 だった可能性が高い。 ・109群のうち2群が捕獲等 により消滅、18群が既存の 群れの分裂による新規群れ
京都	やや増	1,630～2,050(2002～ 2006) ↓ 1,700～2,200(2010～ 2012?)	減	40(2002～2006) ↓ 36(2010～2012?)	拡大	群れの遊動域面積 の合計(km) 842.3(2002～2006) ↓ 937.7(2010～2012?)	・丹波管理ユニット内の高 い捕獲圧により、群れが分 裂・縮小 ・11次計画では情報が得ら れなかった群れもある
兵庫	増	700(2009?) ↓ 840(2012)	横ばい	12(2009?) ↓ 12～13(2012)	横ばい	テレメトリ調査お よび銀付け群の場 所は2009?～2012 年で変化なし	
和歌山	やや増	3,879～7,260(2009) ↓ 3,972～7,308(2012)	横ばい	180(2009) ↓ 180(2012)	横ばい	群れの分布図 180(2009) ↓ 180(2012)	
宮崎	不明	4660～5620(2008～ 2010) 以降データ無し	増	79～95(2002～2007) ↓ 99(2008～2010)	横ばい	地域個体群数/生 息域数 4/13(2007) ↓ 4/13(2010)	

4. 被害状況

- ・農林水産省によれば、近年の野生鳥獣による農作物被害金額のうち、全体の約7%（約15億円）がニホンザルによるものである。
- ・農作物被害金額は、概ね横這い状態であるが、2010（平成22）年度をピークに、ここ2年は減少している（図4-1）。被害面積も概ね横這い状態であるが、2010（平成22）年度をピークに、ここ2年は減少している（図4-2）。被害量は、増減しながらも近年は横這いとなっている（図4-3）。

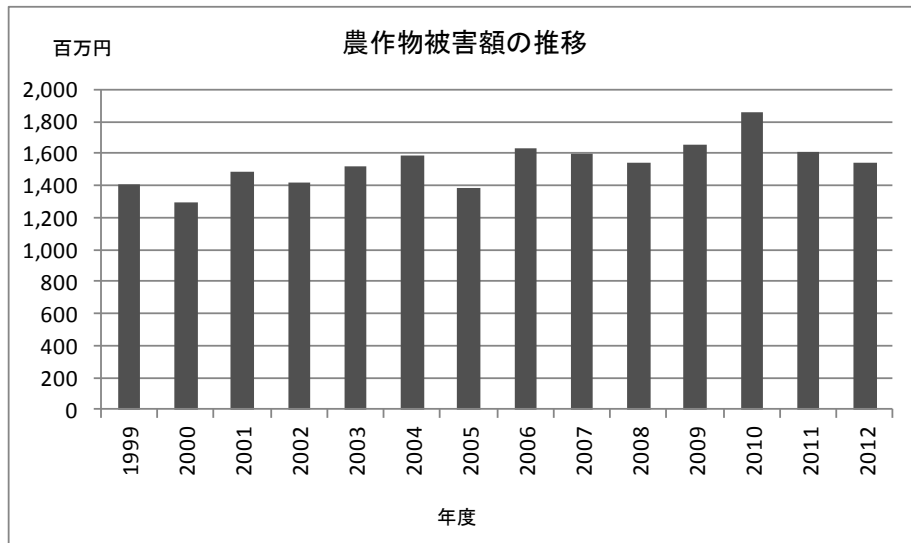


図4-1 ニホンザルによる農作物被害金額の推移（百万円）

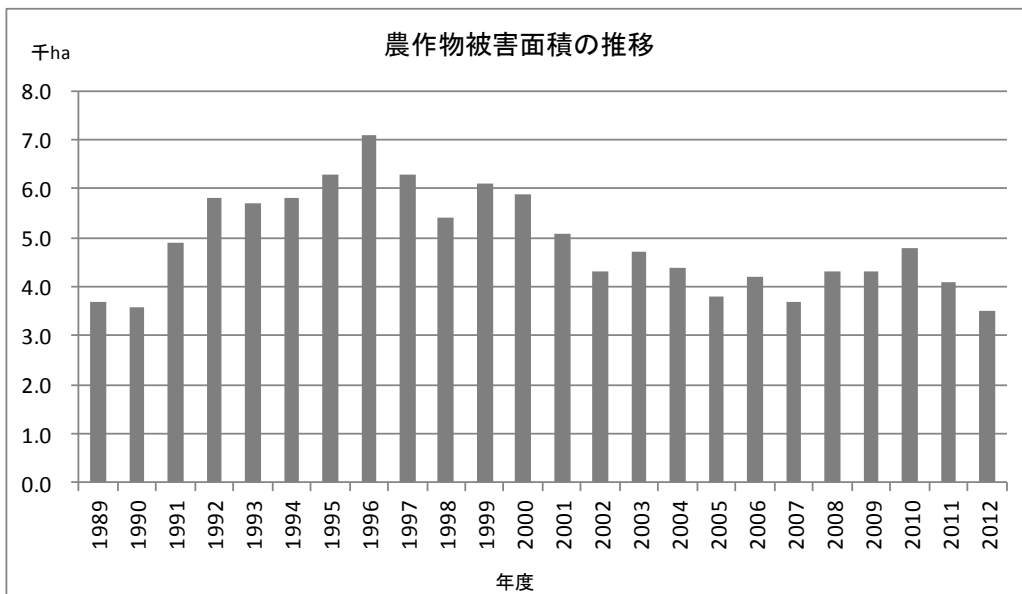


図4-2 ニホンザルによる農作物被害面積の推移（千ha）

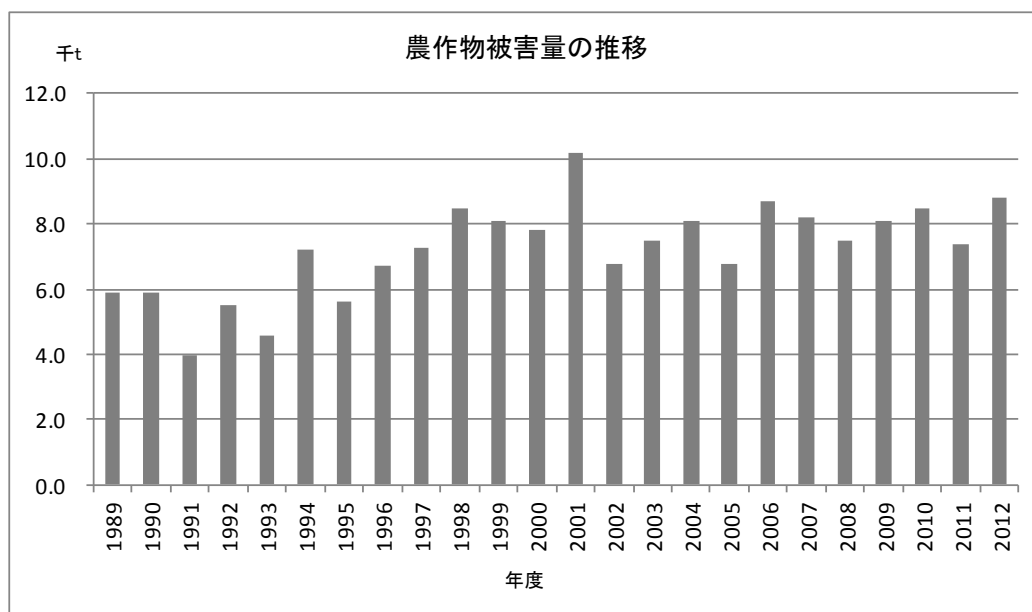


図 4-3 ニホンザルによる農作物被害量の推移 (千 t)
農水省 HP データより作成

5. 現状からの課題

- ・被害防除については、防除の技術的な手法がある程度確立され、成果を上げている地域もあるが、局所的である。
- ・捕獲数は、増加傾向にあるが、多くの地域で被害が減少していない。
- ・ニホンザルの生息頭数、群れ数、分布域は、多くの地域で増加・拡大傾向にある。
- ・ニホンザルによる農作物被害は、減少せず、高止まりの状態が続いている。
- ・ニホンザルの分布の拡がりから考えると、防除だけで対応することは、予算的にも困難であり、個体群のコントロール（捕獲）と組み合わせた総合的な対策が必要である。